

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1291 2024/06/13 (Thu)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)

「離婚後共同親権」制度導入

****民法改正をめぐって****

自公、立憲、維新、国民が実態無視の賛成で成立

今国会で民法改正による「離婚後共同親権」制度を自公、立憲、維新、国民が賛成し拙速に導入した。離婚した後に子どもを保育園に入れるにも、治療を受けさせるにも、引っ越しにも、子どもが希望する学校に進学させるにも「両親」のハンコが必要になり、離婚した相手との関係が強制的に継続する。子どもがいる人に対する実質的な「離婚禁止制度」になる。そしてこの制度の影響は約 200 万人の子どもに及ぶと考えられている。離婚後も父母が協力して子育てできる関係であることは理想だ。しかし、そもそも離婚に至るということは関係が立ち行かなくなっているということ。そんな関係の父母に共同親権を強制されたら、子どもは身動きが取れず、子どもの希望を押しつぶしてしまいかねない。

子どもたちに不利益をもたらし、立場の弱い方を追い詰めてしまう。

【離婚後共同親権とは？】

子どもの重要事項についての決定に別居親の許可が必要になる制度です。拒否されれば、進学・入院・入園・引っ越しなどができなくなる。合意できなければ、裁判所に決めてもらうまで何もできない。

【具体的に何が問題なの？】

- ① 父母のどちらかが拒否しても、裁判所によって「共同親権」が命じられる。
- ② 子連れ別居ができなくなる。
- ③ 裁判所は、精神的・性的虐待など立証できないDVを除外しきれない。
- ④ 家庭裁判所はすでにパンク状態で、対応する人員も施設も予算もない。
- ⑤ 「養育費不払い対策」は骨抜きで実効性がない。
- ⑥ 裁判などを悪用した嫌がらせ(リーガルハラスメント)の対策がない。



【共同親権って誰に関係あるの？】

- ① 子ども。
- ② 子どもがいる人。
- ③ 離婚を考えている人。
- ④ すでに離婚した人。
- ⑤ 婚姻中・未婚・事実婚を含む子どもがいるすべての人。
- ⑥ 将来子どもをもつ可能性があるすべての人。

上記のみならず、医療・教育・行政・習い事など子どもに関わる仕事をする人も、訴訟リスク等大きな影響がある。

【現状】

- 1 離婚後「共同親権」制度法案の導入反対署名が22万筆(4/23 現在)。
- 2 法制審議会でも審議が尽くされていない。また、2/3 が反対意見だったという約 8,000 件のパブコメが公開されないうちに要綱案が決定されており、審議の進め方にも問題がある

3 以下の対策が必要と指摘されている。

- ① 「共同親権」が原則でないことを明文化し、強制が起きないように対策を行うこと。
- ② DV・虐待対策と被害者支援を大幅に拡充すること
- ③ 子ども及び一方の親に「不利益のおそれ」がある場合は速やかに共同親権を解除できる制度にすること
- ④ 家庭裁判所の機能拡充のため、研修・人員体制の強化、財源確保などを行うこと
- ⑤ 「公的立替払い」や「徴収制度」など、養育費が確実に支払われる仕組みを確立すること
- ⑥ リーガルハラスメントの抑制や被害者側支援について、具体策な施策を講ずること

「共同親権」が施行されたら、結婚した娘に『辛いことがあったら、いつでも実家に帰っておいで』が言えなくなる。娘の夫が別居を許可しなければ、裁判所が認めるまで、実家に子連れで帰ることもできなくなる。離婚後、「共同親権」は、子どもがいる人に対する実質的な「離婚・子連れ別居禁止法」になってしまう。このところの立憲民主党は国民を裏切り続けている。経済分野における秘密保護法、自衛隊に陸海空の統合司令部をつくり米軍との共同作戦を遂行しようとする自衛隊法改正、戦闘機の開発、輸出可能にする米英伊との条約批准、すべての法案に賛成した。市民と野党の共闘の大事な旗、立憲主義、平和主義を投げ捨てたのか。

※とは言え、7月7日投票の「東京都知事選挙」では、無所属ではあっても、立候補した運動議員は、れっきとした立民党の参議院議員であって、小池都政の自民・公明べったり公約違反を鋭く批判している。「市民と野党」の共闘として活動中であることから、単純に「立憲主義を投げ捨てた」と断罪することは、正しくないことも自明だと思う。4年前前原代表が、あの「希望の党」への合流を決めて当時も野党第一党であった民主党が一夜にして消滅した。「立憲主義守れ！戦争法反対！」の世論が、「枝野、立て！」と拡がり、その声に応えて、枝野氏一人で、立ち上げたのが、「立憲民主党」だった。飛ぶ鳥を落とす勢いだった「小池旋風」が「排除します」発言で失速したのと同時の動きで、大きく票を伸ばした立憲民主党。その歴史と事実を踏まえるならば、「民主主義守れ！立憲主義守れ！」の運動と声の広がり強さの反映が、立民党(の揺らぎ)そのものとして、正確に反映しているのではないだろうか。

(文責者の了解を得て編集部がコメントしました)



▼今、大学2年生の孫が小
学生だった時、まだ放課後
児童クラブが無く、子ども
たちの放課後をどう保障す
るか時代に、週2回公民

館を借りて、問題集と宿題をみてい
た▼それから10年、子どもたちも
変わりながら、今も週一回、子ども
もひとりだが、続いている「子ども
教室」。今は、放課後児童クラブが、
同じ時間に開かれてはいるが、型ぐる
しい雰囲気逃れて来ているようだ
▼「分かる授業、楽しい授業」とい
う、かつてのフレーズはタブレット
とICT(情報通信技術)の声にか
き消されているかのようです▼しか
し、学ぶことによつて、今まで知ら
ない世界が見えてくるのが、どれ
程の喜びかを劇的な表現で示して
くれたのは映画「奇跡の人」のラス
トシーンでした▼物にはそれぞれ前
がついていて、その言葉を伝え合う
ことで、人は互いに共通の内容を理
解しあう、という事をヘレンケラー
は、一気に知りえたのではないか。
サリバン先生のそれまでの努力と積
み重ねは、プログラムされた教材で
はなく、ヘレンの野蛮な行動の節々
で、「これはー」と思える格闘を繰り
返した結果ではなかったか▼教師と
生徒という人間同士の触れ合いが、
教育の土台であることを忘れては
いけないと思うこの頃です。

2024/06/13